

平成27年9月13日
今週のベストショット



青松園A 塩浜ジャガーズ 対 レッドサンデーズ戦
この日3安打1打点の活躍が光ったレッドサンデーズ二番の川原正豊選手。

写真：雁ノ巣ライナーズ 明瀬旭

奈多グラウンド エラーが勝敗を分ける！！

新町パイレーツ（6勝5敗）10000 1 牟田●-桐島

三友クラブ（6勝4敗）07301x 11 足立○-西田

HR：柿崎（三友ク）2BH：中内（三友ク）盗塁：吉田（新町パ）

4敗同士の両チームの対戦は、昨日からの雨で多少ぬかるんだグラウンドでの試合開始。一回表、三友クラブ足立投手は三連続四球と犠牲フライで1点を失う不安定な立ち上がり。その裏、三友クラブ一番柿崎選手がレフト前で出塁するも、二番竹岡選手の送りバントが小フライとなりランナーが戻れずWプレー。二回裏、三友クラブ五番中嶋選手がレフト前から、パイレーツの4失策、3単打など打者11人で7点を奪う。三回裏、柿崎選手の柵越え3ランで勝負あり！パイレーツも四回に五番佐々木選手と六番大濱選手が連打で出塁するも、Wプレーでチャンスを潰し無得点。ヒットは許すものの要所を閉めていたパイレーツ牟田投手だったが、味方のエラーに足を引っ張られた形となった。（記事：奈多フェニックス 太田敏治、写真：能丸英和）



一回表、パイレーツ本堂選手が先制のホームイン。



粘投のパイレーツ牟田投手。



三回裏、3ランHRの三友クラブ一番柿崎選手。



三友クラブのリードオフマン 柿崎選手（左）と
ナイスピッチングの足立投手（右）。

青松園A シーソーゲームの明暗は終盤に！

塩浜ジャガーズ（3勝8敗）100100 2 内田●ー橋村

レッドサンデーズ（4勝7敗）002013 6 砂場○ー荒口

HR：神田（レッド） 2BH：荒口、八島（レッド） 盗塁：荒木（塩浜ジ）八島（レッド）

一回表、塩浜ジャガーズは一死三塁から三番内田選手の中犠飛で先制。1点ビハインドで迎えた三回裏、レッドサンデーズは二死から二番川原選手がセーフティバントを成功させ出塁すると、続く三番神田選手の左越え2ランで逆転。リードを守りたいレッドであったが、直後の四回表、味方エラーで無死三塁のピンチを作ってしまう、ジャガーズ六番橋村選手に中前適時打を浴び、すぐさま同点に追いつかれてしまう。勝ち越したいレッドは五回裏、一死から四番八島選手が中前安打を好走塁で二塁打とすると、暴投も絡み一死三塁の好機。続く五番前田選手とのエンドランスクイズで内野ゴロの間に八島選手が生還し、再び1点差とする。しかし、六回表ジャガーズは、二死ながら連打で一二塁。1本出れば同点、もしくは逆転の場面で八番田中選手だったが、レッド砂場投手が意地の投球で投飛に打ち取る。その裏、ジャガーズは張りつめた糸が切れたのか、連打を浴びてしまい、3点を奪われたところで時間切れ。レッドがシーソーゲームを制した。（記事、写真：雁ノ巣ライナーズ 明瀬 旭）



完投勝利を挙げたレッドサンデーズ先発の
砂場投手。



ジャガーズ先発の内田投手。



三回裏、レッド二番川原選手が二死からセーフティバントで出塁。



続くレッド三番神田選手が捉える、左越え2ラン!



三回裏、同点のホームを踏む川原選手。



四回表、ジャガーズ五番橋村選手の同点適時打。



六回裏、レッド一番砂場選手の4点目となる適時打。

青松園B ブルーマーリンズ対奈多クラブ
雁レク3 三苦ホーネッツ対新町ウインズ
は、グラウンド不良のため中止。

第19週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ!

第19週、9月13日はグラウンド不良で2試合が中止のため2試合だけが行われました。

奈多グラウンドの新町パイレーツ対三友クラブ戦は、初回ノーヒットで1点を取ったパイレーツだったが、終わってみれば2安打で得点は初回のみ。一方三友クラブは、全イニングでヒットを放ち、12安打で1-11と快勝。三友クラブ一番柿崎選手は、3打数3安打1HR1四球4打点とリードオフマンぶりを発揮。初回4四球を出した三友クラブ足立投手は二回以降立ち直り無死四球完投勝利。パイレーツは初回に攻めきれなかったことが悔やまれる。

青松園Aの塩浜ジャガーズ対レッドサンデーズ戦は、レッド二番川原選手が3安打でチャンスメイクし、三番神田選手がHRと犠飛で返すと五番前田選手のエンドランスクイズ等で終盤ジャガーズを突き離し、2-6で勝利。投げては中盤からストライク先行してきたレッド砂場投手が完投勝利。

9月18日からイングランドでラグビーWカップが始まりました。

Bグループ（日本、アメリカ、南アフリカ、スコットランド、サモア）に入った日本（世界ランキング13位）は、20日世界ランキング3位の南アフリカに対し、後半残り2分で逆転のトライで34-32で歴史的勝利。

これまでWカップでは1勝21敗2分の日本は、番狂わせは起こりにくいラグビーにおいて、前回の大会から監督と主将を据え置いての今回の勝利につなげた。

この1勝は偶然の勝利ではなく、綿密な研究と、フィジカル、メンタル、チームプレイを鍛えてきた結果であり、2019年の日本開催Wカップへと弾みをつけてほしい。

さて、WSLも番狂わせは起きます。

そのためにはしっかりした準備ですね。